

令和6年度 第1回 福井市社会教育委員の会議 議事録

1 日 時	令和6年7月23日（火） 14時00分～15時05分
2 場 所	福井市上下水道局庁舎 5階 大ホール
3 出席者	社会教育委員14名（欠席2名） 教育長、少年対策参事官、教育次長、社会教育関係所属長等12名、事務局5名
4 次 第	・開会 ・市民憲章唱和 ・委員の変更報告 福井市中学校長会、福井市小学校長会、福井市PTA連合会、福井市議会の各推薦団体の役員改選により新たに6名の委員が就任。 ・教育長あいさつ ・議事 （1）報告事項 ① 市民憲章制定60周年記念事業について ② 中央公民館事業『大人になる講座』について ③ 第2期福井市スポーツ推進計画の策定について ④ 福井市体育施設の指定管理者募集要項案の概要について ⑤ 行事予定（令和6年8月～11月） ・その他 ① 第61回福井県社会教育研究集会（若狭町） … 令和6年9月27日（金） ② 第66回全国社会教育研究大会 茨城大会（水戸市） … 令和6年10月23日（水）～25日（金） ③ 令和6年度 第2回 福井市社会教育委員の会議 … 令和6年11月（予定）
5 議事の経過	※以下、委員長の議事進行により各事項について関係所属職員が説明、質疑応答
生涯学習課長	（1）報告事項 ① 市民憲章制定60周年記念事業について （生涯学習課長から趣旨説明） ・本年6月28日に市民憲章が制定60周年を迎えたことを記念し、大会や記念誌編纂などの事業を展開する。 ・記念大会は、令和6年11月30日（土）に、福井県生活学習館で開催する。

委員長

- ・記念事業として、若年層に重点を置いた事業を展開する。主な内容は、市民憲章のメインビジュアルの作成及び活用、図画コンクールや夏期巡回ラジオ体操の実施による小学生への浸透、市民憲章運動の実践を行う若者の活動紹介を通じた青年層への浸透など。
- ・記念誌編纂として、令和7年3月に発行し、市内小中学校、公民館、全国市民憲章連絡協議会会員等へ配布する。
- ・その他、実践目標の改定を行った。（設定期間：令和6年4月1日～令和11年3月31日）

ただいまの説明に対して、意見はないか。

（意見なし）

中央公民館長

（2）報告事項

② 中央公民館事業『大人になる講座』について

（中央公民館長から趣旨説明）

- ・成年年齢を迎える世代の若者が、同世代との交流や講座の企画検討を通して、「これからの自分」や「大人になること」について探求し、自分自身の未来と向き合う機会の創出につなげるため、『大人になる講座』を実施した。
- ・講座の実施に当たっては、高校生が自ら企画を考え、講師と打合せし、当日の準備や運営を行うこととしており、そのサイクルすべてを「大人になる講座」として位置付けている。
- ・令和5年度には、15テーマ、22講座を実施した。

委員長

ただいま説明のあった内容は公民館事業であるが、その視点からの意見はないか。

委員

公民館事業への若者の参加が少ないことについては、どの公民館でも言われており、高校生や中学生の参加を促す試みを行っている公民館が多くある。公民館のホームページを見ていただくと多くの活動事例が掲載されており、各公民館の努力が感じられる。

この「大人になる講座」は、子どもたちが企画し公民館主事が支援する形で運営しており、とても斬新な企画である。

私が勤める文殊公民館においても近くに福井南高校があり、策定している地域活性化プロジェクトと連携する形で様々な活動を試みている。

この「大人になる講座」も含め、機会があれば各公民館での取組について、皆様に知っていただけるとありがたい。

委員	「大人になる講座」の当初の計画では、大人になる心構えや大人になったときに生じる社会的責任など「大人になるとはどういったことか」という視点での企画であって、そこに公民館をどう位置付けるかという企画で始まったのではないかと推測する。その企画を再検討し、高校生が企画を担当するように変わっていった。 これ自体は良いことであるが、結果として本来の教育的観点や公民館が主題に据えていた内容の印象がだんだんと弱まり分散しているといった印象も受けた。この点に関しては今後の検討課題として残るのではないかと感じた。
中央公民館長	高校生を主体に考えることは良いことだと思っているが、高校生に任せるばかりではいけないといった見方もある。 今後の講座の持ち方としては、公民館がイニシアチブを持ち高校生たちにも教えていくなど、必要最低限のことは行っていかなければならないと考えている。 今年度からは、高校生と併せて公民館も主体性を持って講座を進めていきたい。
委員	先ほどの意見に加えて、講座の中にあった「看護系の道」に関して、地域社会の中で看護師はどうあるべきかが注目されている中で、公民館が目指した方向性の取組ができたのではないかと感じる。
委員	中央公民館に関わっていたことがあり、講座生を集めることに苦慮したことを思い出した。シニア世代の公民館利用は多いが、高校生や中学生になると学校や部活動があるためか参加が難しい状況にある。 その中で、このように非常に目を引く講座に取り組まれていることは、今の子どもたちに対して良い環境であると感じる。 様々な学生の方に参加してもらえるととても良いと思うが、毎回の参加者が同じにならないよう主事のアドバイスも必要かと思うため、今後の工夫をお願いしたい。
中央公民館長	高校生を集めるのに苦労した点として、高校生は新聞や市政広報を読まないため、友達から友達への口コミが効果的であり、誘い合って参加することが多い。 そのため似たような参加者になることもある一方で、通学する学校の垣根を超えて様々な高校の子どもたちが集まってくれているため、参加した高校生からは「違う学校の話も聞けてとても良かった」との意見もあった。 今後は、いただいた意見を参考にして作り上げていきたい。

田村委員長	この議題に関しては、本日欠席の委員からも意見をいただいているため、事務局から紹介させていただく。
欠席委員意見 (事務局読上げ)	ある高校生の、「何かやりたい、やれることはないかな」「小学生にそろばんを教えることだったらできるかな」といった言葉を公民館主事に取り上げ、講座が始まった。 公民館主事が高校生のつぶやきをうまく講座に生かしたすばらしさと、この企画を承認した館長の英断に感服する。 高校生が主体的に考え企画するこの講座の経験は、明日を担う若者にとって、とても重要なことと考える。参加人数はまだまだ少ないかもしれないが、ぜひ継続してほしい。事業の継続について、教育委員会の支援をお願いする。
委員	来年度末をもって土日の中学校の部活動が行われなくなるが、その行先として中学生がやりたいことができるような居場所を作っていただきたい。 ぜひ、今回の高校生の「大人になる講座」を活用し、対象者を中学生にした企画を検討していただきたい。
中央公民館長	改めて公民館の会議において検討し、前向きに考えていきたい。
スポーツ課 課長補佐	(2) 報告事項 ③ 第2期福井市スポーツ推進計画の策定について (スポーツ課 課長補佐から趣旨説明) ・令和6年度から令和10年度までの5年間の計画で、第2期福井市スポーツ推進計画を策定した。 ・基本理念として「スポーツの力で創る！元気で明るく楽しい！まちふくい」を掲げ、4つの基本方針「スポーツ機会の創出」、「スポーツ文化の振興」、「スポーツ活動への参加促進」、「スポーツを活かしたまちづくりの推進」を定めており、この基本方針に沿った16の施策と取組を展開していく。 ・重要業績指標としては、週1回以上運動をする成人の割合や、体育施設利用者数、ふくい桜マラソン大会出走者満足度の3つを設定しており、計画に記載された取組を着実に実施し、スポーツ推進を図る。
委員長	ただいまの説明に対し、スポーツ推進の観点から意見はないか。

委員

この計画の策定に当たっては我々も関わらせていただき、このような計画目標を掲げられた。この計画を進めるに当たり根底にあるのは住民の健康、またそれによる医療費の抑制などがあるのではないかなと思う。

スポーツへの参加率について、コロナ前までの状態に戻るのかといった懸念があるため、参加率を伸ばす手段について十分な検討をお願いしたい。

委員

福井市では令和7年度末をもって中学校の土日の部活動を行わないことが示され、とても反響が大きかった。その中において、3月にまとめられた本計画の中で、地域クラブ活動の活性化や移行についても取り上げられており嬉しく思う。

中学生は思春期を迎える時期であり、大人の集団とは距離を置きたがる年頃になるため公民館活動などからは離れた存在になりがちであるが、ぜひ様々な機会を捉え、学校以外でも子どもたちが身体を動かす機会が得られるようにしていただけると良い。1種目に限らず、様々な経験を積む機会があることも大切である点を踏まえ、計画の推進をお願いしたい。

重要業績指標について3点挙げられているが、4つある基本方針に対応した指標の数にはならないのか。

スポーツ課 課長補佐

地域クラブへの移行に関しては、市内にある総合型地域スポーツクラブと連携しながら進めていく。

重要業績指標についてだが、それぞれの施策や取組について目標があり、その中から重要業績指標として選びだしている。個別の目標についても、きっちりと進捗していきたいと考えている。

委員

重要業績指標として、週1回以上運動をする成人の割合を令和10年度までに70%にするとある。小学生の実態として、運動する機会が増えていないという実感がある。

福井県は全国体力テストにおいてトップクラスの成績であり、本計画を定めて基本理念を大切にしていくことは素晴らしいことである。

9月には小学生のニュースポーツ大会が予定されており、スポーツを行うことの楽しさを小学生に広めていきたいと考えている。また学校においても、体育や学級活動などでニュースポーツを取り上げていることから、この計画推進の一助になっていると感じている。

個人としてはマラソンを行っており、重要業績指標にふくい桜マラソン大会の満足度が90点以上という高い目標を挙げられているが、ぜひ達成していただきたい。

委員

団体活動の一環として、他団体とともに軽スポーツ大会を開催しているが、参加者が少なく団体競技から個人競技に変わりつつある。

本計画では、スポーツを日常的に身近な存在として親しんでもらい、健康に結び付けていくことが目標であると思うが、新たなスポーツが出てきたときの情報提供や、大きな団体の大会だけでなく市民のグループなど小規模な大会のあり方なども模索していかななくてはならないと感じている。

団体競技としてのスポーツの学びも大切であるため、バランスよく総合的に実施していただきたい。

(2) 報告事項

スポーツ課 課長補佐

④ 福井市体育施設の指定管理者募集要項案の概要について (スポーツ課 課長補佐から趣旨説明)

- ・本市の一部の体育施設においては指定管理者制度を導入しており、柔軟なサービス提供等により利用者が増加している。
- ・現在は4期目であるが、現契約は令和7年3月末までとなっていることから、令和7年度以降も指定管理者制度の導入を継続するため、今年度中に次期(令和7年度～令和11年度)の指定管理者の公募を行う。
- ・公募を行う対象施設は現契約と同じ10施設(東・西・南・北・美山体育館、中藤屋内運動場、西公園・わかばテニスコート、美山アンデパンダン広場、きららパーク)。管理料上限は5年間で356,060千円(71,212千円×5年)。要求水準は、年間利用者数500,000人、自主事業の実施、利用者アンケートの実施。
- ・6月から7月下旬にかけて募集を行い、1社の申請があった。8月頃に選定委員会を開催し、9月頃に指定管理者の決定を行う予定。

委員長

要求水準にある利用者アンケートに関して、利用者の年代や利用内容は指定管理者において把握できる内容のものなのか。それとも行政で把握しているのか。

スポーツ課 課長補佐

行政としては体育施設の利用者の年代については統計として取っておらず、利用者数の集計を行っている。

アンケートについては、指定管理者がサービス向上のため行っているものであり、アンケート提出者の属性については指定管理者において把握できていると思われる。

委員長	それぞれの体育施設がこういった年代の方にどのような内容で利用されているのかなどが分かると参考になるのではないかと思います。その他、意見はないか。
委員	第五期の導入案に関しての考えについて伺いたい。対象施設に北体育館が挙げられているが、すぐ隣に令和８年度に九頭竜中学校が開校する。部活動の際などにおいて、学校の体育館で収まりきらなかった生徒たちが北体育館を利用するといったことは考えとして想定しているのか。 もし利用するということであれば、利用者数のほか利用料などがどのようなのかといった点が考えられるが、いかがか。
教育長	現時点では、九頭竜中学校の生徒が学校の体育館と併せて北体育館を利用するといったことは考えていない。基本的には生徒は学校の体育館で活動するという考えである。 生徒たちの活動規模がどれほど必要になるのかは運用を行ってみたいと分からない部分もあるが、現時点では学校体育館と北体育館については切り離して考えている。
事務局	③ 行事予定（令和６年８月～１１月） （事務局から説明） ※質疑なし
事務局	・その他 ① 第６１回福井県社会教育研究集会（若狭町） ② 第６６回全国社会教育研究大会 茨城大会（水戸市） ③ 令和６年度 第２回 福井市社会教育委員の会議 （事務局から説明） ※質疑なし
委員長	せっかくの機会であるため、お越しいただいている委員皆様から意見や感想等をいただきたい。
委員	スポーツ推進計画の議題があったが、文化活動においても同様に、基本方針に基づきより一層の活動を推進していくためには子どもたちが気軽に活動に親しみ関われる方法を模索していくべきであると考えている。 中央公民館の「大人になる講座」では高校生が友達を誘いあって参加

していたが、より多くの子どもたちが参加できるような周知方法がないかと感じた。

子どもたちの文化離れが非常に危惧されている。子どもたちには伝統文化に親しんでもらい、日本人の気質などを次世代に受け継いでいてもらいたい。

委員

令和7年度末に向けて地域クラブ活動への参加に際しては様々な課題があるため、スポーツ課や教育委員会所管課、また学校が連携しながら進めていていただきたい。

委員

スポーツ推進計画において、週1回以上運動をする成人の割合を令和10年度までに70%と目標を掲げられている。

個人的に毎朝地域の方々とラジオ体操を行っているが、来週には福井市フットボールセンターにおいて全国夏期巡回ラジオ体操が開催されるとのことである。

ぜひ多くの方が集まり機運を高めていただけると、普段から運動に親しむことにもつながっていくのではないかと感じる。

委員

このたび初めて社会教育委員を務めさせていただくことになった。これから勉強を重ねていきたいと思っている。

副委員長

本日の議題の中には、子どもたちが未来に向かって夢があふれる内容のものが、とても喜ばしく感じている。

行事予定の資料についてもすばらしい企画が掲載されており、各課での努力が感じられる。自然史博物館の「ホネ部」の活動についてもボランティアグループが行っているものと初めて知った。

また、昨年クラウドファンディングを行った橋本左内や、生誕450周年を迎える結城秀康、姉妹都市提携30周年を迎える熊本市とのつながりのきっかけである横井小楠などの郷土歴史博物館の展示もすばらしいと伺っている。さらに、結城蔵美館が所有する御手杵の槍が県立博物館で展示されていることや、若狭歴史博物館が行う杉田玄白の展示事業に郷土歴史博物館が所有するキュンストレーキを貸し出すなど連携も行き届いていると感じる。

ぜひ多くの方に広報していただくとともに、我々自身も周知していかないといけないと感じた。

委員長

未来のある中高生が様々な夢を持って地域で活躍したいといった思いを受け止め、手助けし、一緒に歩いていくことが我々社会教育委員として大切なことではないかと考える。これからも委員皆様の協力をお願いしたい。

そのほか発言がなければ、本日予定していた議題はすべて終了したため、以上をもって会議を終了する。